

# 平成29年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第3回）【概要】

日時：平成29年11月20日（月）午前10時から正午まで  
場所：千葉県教育会館6階 会議室604

## 1 出席委員（敬称略・名簿順）

佐藤 智司，小野寺 利幸，藤田 和弘，百瀬 明宏，関根 寿典，佐久間 勝彦，田中 庸恵（副委員長），齋藤 明（委員長），磯野 和美，大谷 岩男，大田 紀子，金子 基一，大森 英一，岩崎 章

## 2 次第

(1) 開会のことば

(2) 県教育委員会あいさつ

(3) 報告

- ①平成29年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第2回）の概要について
- ②平成30年度千葉県公立高等学校入学者選抜における選抜・評価方法の公表について
- ③平成29年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会専門部会からの報告について
- ④その他

(4) 協議

- ①今後の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について
- ②平成31年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程（案）について
- ③その他

(5) 閉会のことば

## 3 報告事項について

- ・調査書の中の「ウ 行動の記録」の「○の個数に応じて、3段階で加点する。○が一つもない場合は、審議の対象とする」とあるが、○が一つもない生徒は審議の対象ということだが、中学校側も行動ではなるべく○をつけてあげたい気持ちはあるが、基本的には全部斜線が基本である。このことについて考えていただければありがたい。

⇒意見として承る。

## 4 協議内容

### ① 今後の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について

- ・専門部会から、新たな入試制度に向けた試案として「県立高等学校入学者選抜の改善試案」について説明を行った。
- ・2回の選抜において受検期間が長期化してきたものが、中学・高校での学習時間の確保等に向けて、さらに教員の採点やその他学習指導に対する負担軽減にも向かった案で、いい方向にあると思う。今の小学校6年生が中学3年時に受検するというので、周知の期間もあるので、よい案だと思う。
- ・中学校側としても大変ありがたい試案ができたと思う。ただ一番心配になるのが、追検査がどういう形で行われるのか、そのために証明が必要になるのかといった細かいことがこれから出てくる。さらに、1日目は受検したが、2日目から受検できなかった生徒のことも含めて考えていかなければいけないのでは、といったことが気になる。
- ・これまでの入学者選抜の理念を継承して問題点を解決していく方向で、試案として大変まとまっていると感じる。追検査について、例えばインフルエンザ対策など考えた場合、ある程度の期間が必要である一方、合格発表を同時に行うので、それほど期間は空けられないという課題がある。
- ・この提案で賛成の立場から、いくつかの要望がある。選抜において全て得点化する方向で進めていく中で、高等学校の特色ある理念が明確になっていかなければ、選抜方法の内容が全て独り言になってしまうので、この点についてはしっかり押さえていただきたい。その中で、国の方でもいま問題になっているが、欠席の日数だけが得点化されたり、審議事項にされたりという話で、不登校に関してはあらゆる理由があり、これをどうするかという問題がある。一方で、専門学科のキャリア教育の問題もあり、どのように捉えていくか。軽度の発達障害等の関係から特別支援絡みのことについても、具体的には何らかの取組がなされなければいけない状況にきている。入試の改善、今後に向けて、是非検討していただきたい。

- ・非常によくまとめられていると思う。親の立場からすると、子どもが受検するに当たって慎重な学校選びができるのではないかと。今までは2回あるということで、少しレベルの高いところにトライしてみる、実際、後期の方で入れそうなところに落ち着く、ということが実際に親の動きとしてあるだろうと思っている。1本化されることで、より慎重に、加えて倍率を見ながらより確実に入れるところに変えるなど、そのような動きになるのではないと思う。また、本検査を受検できなかった場合についても、いろいろなケースがある。より具体的に、いろいろなケースについて、それをどう確認するか。やむを得ない理由についても、本人にとってはやむを得ない理由かもしれないが、検査する側からするとどうなのかということもいろいろ出てくる。より具体的な事例を出せば、親としてもすごく安心できる形になると思うので、お願いしたい。
  - ・一つの結論が出たことに、保護者の立場として感謝申し上げる。2回を望む保護者の方から出がちな「チャレンジ」という考え方、また、病気に関しては、追検査をはじめ、中身の濃さというところで対応していただいて、わかりやすい形になったと感じている。保護者はどうしても友人、知人等の情報を当てにして話をする。ここで大きく変わること、情報がいったん途切れるので、おそらく大きな動揺が走ると思う。対応される現場の先生方はかなり大変な思いをされると思うので、良いものになったという意義をしっかりと伝えていただきたい。ここからまた良くしていくことに対して、耳を傾けていただける土壤があるということ、これまでの検討の回答が出たということで、これからまだ良くなっていくところがあるということ、これを是非知っていただけるよう、丁寧に現場の先生方に落とし込んでいただければと思う。
  - ・高等学校の立場としては、このような日程等については大変賛成したいと思っている。これから動かしていくときの課題として、1つは、改善の方向性の中に「多元的に評価できる選抜とする」ということが書いてあるので、本検査における選抜方法をどのように行うのかということが、大きな肝だと思う。単に日程だけが独り歩きするのではなく、ここが非常に重要である。2つ目は、高等学校側から見た場合に、入試を2日間、追検査を1日とすると、自ずと想定される日程がかなりなものになるとイメージする。例えば、具体的に、平成33年2月から3月の曜日を見たときに、いろいろと行事が詰まってくるのではないかとこのところがある。日程の上でのかかなり長いスパンで、日程のルール化を決めていただければありがたい。3つ目は、本検査、追検査も受けられないという生徒への第2次募集、或いは追加募集というのは、これまでとは違った大きな意味合いをもってくると思うので、慎重に考えていただければありがたい。最後に、追検査の具体的問題はどのようにするのか、誰がどう作るのか。追検査の定義づけ、誰が受けられるのかということやはり大きなところだと思う。様々な特別入学者選抜があるので、特に成人の場合の扱いであったり、或いは埼玉県等の事例で言うなら、入試の難易度を少し分けるなど、選抜方法ということに絡んでくる。トータルとして発表する以上、多角的に検討いただいた上でまとめていただければと思う。
  - ・高校入試対策委員会で、この問題についてはこれまで議論してきた。その中で多くから頂いたのが、千葉県としてどういう子どもたちを育てていきたいか、それが根本にあって、だからこういう入試になるという、それがそもそもの改善の基になるべきだろうという意見は、その都度出てきている。現在の改善の背景や方向性については書かれているとおりで、加えて県として、どうやって中学生や高校生を一緒になって育てていくのかがもう少しはっきりしてくれば、この検査の内容の中身が、さらにいい形で詰められるような気がする。中学校と高校が一緒になって、どういう子どもたちを育てていくか議論する機会を併せて設けていただければと思う。地域連携アクティブスクールなどの入試は、これに合わせてどのようにしたらいいのか、定時制の入試はどのように中身を変えていけばいいのか、いろいろ心配な部分があるが、それもどういう子供たちを育てるかということに起因していけば、必ずいい答えが出てくるような気がする。
- 現在、千葉県は、年度末等の異動による急な転編入等については、基本的には外数対応で、選抜で定員分を、それから転編入試験をやってプラスαで取るという形をとっているが、他県の多くはそれを入試段階で引いた内数でやっている都道府県が多い。現状の中で、高校も40名を超えるクラスになってくると、プラス1、2という部分で、教材面の心配など含めていろいろなことで不都合が出てくる。千葉県も予めイレギュラーな対応をする部分を定員の内数に設けて検討する機会があるとよい。障害者をどういった形で含めていくのか、成人の生徒をどうやってその中に含めていくのか、外国人の子供たちもどうやって含めていくのかに関連して一緒に協議ができるのではないと思う。いずれにしてもこれまで千葉県としてはきちっと対応してきているが、外数でやるべきなのか、内数でやるべきなのかについて、どこかで議論が必要ではないか。
- ・私立学校として、非常にすっきりした形になると思っている。この方向性を踏まえて私立学校がどのように対応するのかということは、これから校長会等で検討したいと思う。私立も前期・後期の2回実施して

いるところがほとんどだが、前期試験は1月17日が始期になっており、東京その他の私立高校がもっと早い時期にやっていたり、その時期に入試をやっているため、これを2月以降にずらすということは、私立の他都県との関係で難しいのではないかと。一方、後期試験については2月5日が始期になっており、公立が2月15日前後で、これが2月下旬ということになれば、当然あとに遅らせるということになるのではないかと考えている。このことについては検討する。

追検査については、インフルエンザに罹った場合、医師が登校を認めるのにかなり期間を要する。それを待ってということになると、来年度は3月6日が後期発表だが、私学からは、私学と公立との併願者が多いためその後の入学者が確定し年度末の準備等で、せいぜい3月6日ぐらいまでということを行っている。もし、インフルエンザに罹って受検しない者のためという形で10日ほど空けるという形になると、3月15日ということになるので、期間をとるとしても3月6日ぐらいに発表というようにしていただかないと困る。そうすると2月下旬の本検査が前倒しになってくると、2月の中旬ぐらいになる可能性もある。インフルエンザに罹った生徒に対して、どのように対処するのがいいのか、これは大学受験も同じだが、あまり考えるとおかしくなったりするのではないかとと思うので、他都県の様子なども踏まえて合理的な形で日程を決めていただければと思っている。

- ・ 選抜方法の中に「多角的に評価する」ということばが出てくるが、大学入試でも同じである。多角的と言っても、どのように大学側が学生を評価していくか難しい話であり、各大学は試行錯誤している最中だと思う。それが明確になったのは、この4月からで、各大学、私立大学、国立大学も含め3つのポリシーというものが出た。入学者選抜で使うアドミッションポリシーというもののだが、その学校でどういった生徒、学生が欲しいか、どういった人材を育てていくのか、どういう教育課程を組んでいくのかということからスタートした中身であるが、おそらく公立高校であっても、こうした部分で特色を出していかないと今後難しくなっていく。千葉県の方になると、行くところがないと言っているらしいが、そうしたところでも、ある程度特徴を出していくことで、この入試制度が、現実的なものになっていくと思っている。こうしたものを前面に出すことによって、高校に入学した後、大学へということ考えた上での高校入試というように進んでいくのではないだろうか。その点も含めて検討していただくと大変ありがたい。
- ・ 授業にも弊害が出ていたことが解消されることと併せて、教員の負担も軽減されることで、非常に良い試案が出されたのではないかと。多角的に評価できる選抜というところで、将来生徒たちが高校・大学と進んで、社会では競争社会ということになる。民間企業は、お客様に選ばれる会社になるということによって日々取り組んでいるところもある。その中で、各高校が特色のある選抜をすることで、学校の伝統や校風といったところを前面に出し、それを入試制度に反映させていくのも一つの学校の強みというところにつながっていくのではないかと。それと生徒がこんなことをやりたいということとマッチングさせながら、この入試、それから高校生活、大学生活、そして社会人になるというところで一連の繋がりが出れば、生徒にとってより良い制度になっていくのではないかと。
- ・ 様々な形で学校に関わらせていただく中で、これまで県がされてきた特色のある高校というところで一定の成果を目の当たりにすることができ、真摯に県が、子どもたちを育てるということに向き合っていたとこれまで感じていた。都市部の保護者も、逆に房総の南の方で、通う学校がないと悩んでいる保護者に対して、この改善が大きなメッセージになると感じている。より良い形でメッセージを発し千葉県のみならず子どもたちを育てていくことになると感じながら話を伺った。

⇒ 県立高等学校入学者選抜の改善試案については、頂いた意見も含め、最終的には入試制度の改善案として事務局で素案を作成し、広く県民の方々からの意見を募り、頂いた意見を踏まえ、教育委員会会議を経て年度内に大きな方向性として公表していく予定である。また、併せて協議いただいた平成31年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程についても、委員の意見を勘案し、県教育委員会として総合的に検討して参りたい。

## ② 平成31年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程（案）について

- ・ 前回の協議会において、日程の方向性について意見が出尽くした形であった。事務局には（案B）の方向で進めていただくよう伝えたとのことである。  
なお、この日程（案）については、本協議会での御意見等を踏まえ、12月の教育委員会会議で決定し、年内に公表される予定ということであるので、御承知おきいただきたい。